こんな 活動です

ふるさと大好き 妻木っ子 ~地域と学校が連携し、よりよい地域社会人を育てる~

岐阜県土岐市

●活動名

●関係する学校名

土岐市立妻木小学校「地域・学校づくり協議会」

土岐市立妻木小学校

指定·設置日 地域学校 学校運営 協働活動 平成 29 年度 開始年度 協議会 協働本部 平成30年4月1日設置 学校支援活動 地域課題解決学習 地域人材育成 活動区分 配置人数 配置人数 統括的な地域学校協働 地域学校協働活動 活動推進員等の数 推進員等の数 1人 4人 延べ登録人数 ボランティア 企業·NPO ICT機器 有 の数 等との連携 活用 240人 参考URL http://tumagisho.cocolog-nifty.com/blog/ **☎** 0572-54-1111 ●連絡先 土岐市教育委員会 生涯学習課



● 平成29年度より、土岐市教育委員会よりコミュニティ・スクールのモデル校としての指定を受け、2年間かけて準備を進めてきた。 人選、組織作り、スケジュール調整を行う過程で、地域と学校との協働とは何か、目指す姿を話し合ってきた。 具体的には、学校 評議委員会を運営協議会の準備委員会として、地域の中核として活動する人々を委員に選出した。 また、公民館運営協議会の 協力を受けて、地域の歴史、自然、文化、産業などの分野で、地元の団体・組織と連携を進めてきた。 さらに、地域の方々と、将 来のふるさとや子ども達への願いを交流する場を設け、コミュニティ・スクールが目指す姿を共有してきた。平成30年度より、学校 運営協議会が設置され、正式に12名の委員のもと、地域の10の支援団体を3部会に整理した。各部会のコーディネータが中心と なり、「ふるさと大好き妻木っ子」を合い言葉に、ふるさとを愛し、地域に誇りをもって生きる子ども達の育成に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・行事の精選・スリム化を意図して、PTAの授業参観と重ねて、年4回の学校運営協議会が位置付いている。授業の子どもの姿を通して、学校の教育活動への評価、次年度の重点、改善点等を地域の方と共有するサイクルが確立されている。
- ・組織化された3つの部会で効率よく充実した活動が継続されている。第1部会では、子ども達が地域指導者に登録した住民より、「ふるさと学習」の指導を受け、6年間通して地元の宝物を学んでいる。第2部会では、防災、交通安全、施設整備など、子ども達の命に関わる支援を通して、学校環境が整備されている。第3部会では、地域の高齢者の方との交流やボランティア活動の機会を多く設け、子ども達の地域貢献の意識を育てている。

【実施に当たっての工夫】

- ・各部会3名のコーディネータが中心となることで、住民が主体的で、効率的に活動できる体制が確立された。
- ・学校内のワークルームを整備したことで、会議、資料の保管など利用しやすい環境が整い、協議会の活動拠点となった。
- ・学校のPTA活動と運営協議会の活動日程をリンクさせて、行事の精選を図ったことで、教職員の働き方改革にもつながった。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域の10の団体を整理して、3つの部会に組織化した。第1部会(生活・学習支援)・第2部会(安全・環境整備)・第3部会(地域交流・ボランティア)の各コーディネータが指南役を務め、外部機関との窓口となり、連携・協力が円滑に行われている。また、学校報「しるやま」に学校運営協議会のコーナーを設けて、毎月の活動の様子について、妻木地区の全家庭に周知を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・運営協議会長の言葉より。「妻木地区は公民館を中心にまとまっていた。当初は、『コミュニティ・スクールは本当に必要なのか?』という思いであったが、3年目を迎え、いつでも集まり、話し合い、地域の情報が入りやすくなった。参加する地域の高齢者は知恵や経験を子ども達に伝承する機会を通して嬉しさが生まれ、労を惜しまず、積極的に関わる姿が生まれている。こうしたやる気が創生されていることが財産であり、学校職員の異動に関わらない持続可能な体制が確立された。」
- ・地域学習での子どもの声より。「製陶所の人たちは、道具の手入れ・丁寧な作業をして外国のものに負けない『メイドインジャパン:世界に誇れる妻木町』へのこだわりを持って作業をしていることを知って、嬉しく思いました。」
- このように、地域の人、産業、自然のよさを、体験を通して段階的に学び、子ども達は地域で豊かに成長し、ふるさと妻木を知り、地域への愛着を深めている。

● その他

・第1部会(生活・学習支援)は、「ふるさと学習」を行っている。どの学年も知識、技能面でのインプットの支援に留まらず、地域の方に喜んでもらおうと活動の出口に、学んだことを用いて感謝の会等を位置づけ、地域貢献の体験を増やしている。



援を受けて野菜の栽培、地域の企業(JA)の導者の方がパイプ役を務

支め指



花壇でボランティア活動のスタッフの方達と地域の公民館・青少年健全育成会